

代表的な毒きのこ



オオキヌハタトマヤタケ

夏から秋、広葉樹の林内に発生する。誤食すると多量の汗をかき、呼吸困難などを起こす。

傘：径2~6.5cm、はじめ円錐形、のち周辺が平らからそり返る。表面は黄土色か帯褐黄土色、中央は褐色、繊維状のち放射状に裂ける。肉は白色。

ひだ：黄白色のちオリーブ褐色となり、柄に上生か離生し、密。

柄：表面が白色で繊維状、絹光沢がある。

クロトマヤタケ

夏から秋、針葉樹、広葉樹の林内、路傍に群生または単生する。誤食すると、発汗、全身の震え、下痢のほか、肝障害などを起こす。

傘：径1~4cm、まんじゅう形から平らに開く。やや中高。表面は繊維状で小鱗片を有し、暗褐色。



柄：繊維状で傘と同色。上部は淡色。

※昭和50年、札幌市内でクロトマヤタケによる食中毒で1名が死亡した。

代表的な毒きのこ

スギヒラタケ

秋、針葉樹(特にスギ)の倒木や古い切り株などに群生する。

傘：径2~6cm、扇形~楕円形、ときにへら形で肉は薄い。表面ははじめ純白で、のちに淡暗色になる。
ひだ：密で白色、枝分かれする。

柄：柄はない。

※長い間食用とされてきたが、平成16年にスギヒラタケを食べた人の脳症発生事例が報告されたため、厚生労働省では、安全性が確認されるまでの間、スギヒラタケの摂取について見合わせるよう注意喚起している。



スギヒラタケとよく似た食用きのこ

ウスヒラタケ

食用とされるウスヒラタケはひだが枝分かれしていない。春から秋、広葉樹の倒木、落枝上に群生する。粉臭がする。

傘：径2~8cm、扇形。表面ははじめ淡灰褐色で、のちに白色~淡黄色。はじめから白色の場合もある。
ひだ：密ではじめ白色、のちにクリーム色。
柄：0.5~1.5cmと短く、ないものも多い。

